

草 生人

メールマガジンまとめ版

2013/08

はじめに

「草生人」とは

「草生人」は埼玉県草加市に密着したフリーペーパー、いわゆるタウン誌です。2012年6月に創刊以来、ほぼ隔月刊のペースで発刊。インタビューを基本とし、お店の紹介だけではなく、生活に密着したテーマに沿った記事や、市内のイベント、出来事などを掲載しています。

合い言葉は「草加再発見」。

部数は現在2500部。ご協力いただいている店舗で配布させていただいています。

「草生人メルマガ」とは

「草生人メルマガ」は「草生人」編集部が制作する「草生人メイキング」メールマガジン。メルマガだけのコラム、編集部日記、取材時のこぼれ話（本誌に載せきれなかったこと）を掲載しています。オリジナルのメルマガは月に3回発行しているテキストベースのメールマガジンですが、3回分をひとつにまとめて読めるようにしました。

スマートホンの場合はePubでお読みください。

草生人関連URL

- 草生人Web : <http://www.asymos.com/soseijin/>
- 草生人編集部ツイッター : <https://twitter.com/soseijin> (イベント情報がメイン)
- 草生人Facebook (写真集) : <http://www.Facebook.com/soseijin>

もくじ

編集部コラム

おもに編集長による日々思っていること

1. 「フルカラーの夢」の材料
2. 今自分がどこにいるかが問題だ。
3. 草加の「観光資源」で思ったこと

編集部日記

イベントレポート速報版+α

1. イベント告知と「わいわいロード商店会夏祭り」
2. もひとつ体が欲しい今日このごろ

起業日記

編集長兼社長による1人会社の「起業」にまつわるいろいろ

- その3：仕事開始前の「つまづき」
- 起業日記番外：タウン誌を創るための「道具」に関するお話

草加小話

じつに彰による草加レポート

1. ヤンキーが発する街おこしのメッセージ

「フルカラーの夢」の材料

次女が、あまり夢を見ないと言う。よく「実際にはみんな見ているけれど、忘れてるんだ」と言われている。

けれど、本当にそうなのだろうか。

それはさておき、今回は頭が暑さで沸騰しているので、「夢」についてのもろもろ。

なぜ「夢を見るのか」ってことは、最近では脳が記憶を整理している、脳内情報のメンテナンス、という説がわりと一般的だと思う。だから一夜漬けよりちゃんと眠った方がいいとか。

で、ということは、脳内にある記憶を元に作られる。つまり記憶に左右される。

まあこれは当然だ。

そういえば私が子どもの頃、夢っていうのは白黒で色が付いていないのが普通で、色つきの夢を見るのは精神が病んでいるという説があった。

なぜ記憶に左右されるはずの夢が白黒なんだ。白黒テレビかよ、つと言いたくなるが、これはもしかしたらありかもと思った。その時代は、「現実では無い動く映像」を見ることができたのは映画かテレビの「白黒映像」なわけで、もしかしたら、脳内ではカラーなんだけれど、実際に体験したことが無いから、思い出すときに「白黒」と認識されてしまうのかもしれないな、と。

夢は右脳と関係があるという話もある。

フルカラーの夢、見るというより体験する、感情や五感の記憶が残る夢を多く見ている人は、右脳が活発であるというのだ。この右脳は創造性とイメージを担当していて、芸術と関係がある、という説。

科学的には「俗説」らしいけれど、でも否定する確かな証拠も無いらしい。

子どもの頃から私はフルカラーの夢を見まくっていた（だから私はおかしいのかなと思っていたこともある）。

映像が記憶に残っているだけではなく、そのときの感情とかそんな細部も残っている。

ある夢では、見えている街の情景をどんどんズームアップして、ここまで作り込まれているのにこれは夢なんだと気づいたこともある。

子どもの頃は 空を飛ぶ夢をよく見た。ビルの間をすり抜けて飛ぶ。

また、SFチックな夢も多い。幻想的な湖のそばを通る電車に乗っている。夜の空を「未知との遭遇」で登場するような巨大なUFOが移動していて、侵略されてしまった、どうしたらいいんだと焦っている。向こうの街で怪獣があばれているのを、高台の建物から眺め、こっちに来るから逃げなくちゃと思っている。

生まれてから2才までと、小学校2年生から中1まで過ごした父の実家は、たびたび夢に登場した。防空壕の跡があり、かまどもあり、時々鼠が天井を走り、2階には倉庫のような「秘密の部屋」があった。間取りが中学2年から住んでいた実家によく似ていたため、夢の中ではよく合体してたなあ。

大学後半から旅行が好きになり、卒業してからも年に2回ほど1人旅をしていたためか、電車に

乗る夢、駅の夢も多い。乗り遅れる、切符が買えない、乗換を間違える、乗ったけれど席が無い……。 「あ、この駅は〇〇駅だ」と、以前の夢に登場した駅だと思ふこともある。

話が戻る。

私が子どもの頃から非現実的な夢をたくさん見ていたのは、もしかしたら、いろんなことを妄想していた（いい言い方をすれば「想像力」を働かせていた、悪い言い方をすれば「現実逃避」）からじゃないかな。

非現実的なフルカラー映像は巷に溢れてはいなかったが、頭の中ではいろいろなイメージを作っていた。本を読むのも好きで（児童向けSF全集がけっこうお気に入りだった※）、文字で書かれている内容のイメージを、その時の映像知識を総動員して頭に思い浮かべていた。

この映像は、現実ではないけれど「記憶」としては残るのではないだろうか。

これが、夢の材料になったのではないだろうか。

フルカラーの夢の。

今はさまざまなフルカラー映像が巷に満ちあふれているから、みんなフルカラーの夢を見ているんだろうな。

※夢のメカニズムを解説するコラム なぜ人は眠るのか、夢はなぜ見るのか

<http://s-park.wao.ne.jp/archives/597>

※小学生向けのSF全集 統一された全集ではなかったが、なんだっけなーと検索していたら同じことを考えてちゃんとリストアップした人が居た。

・ジュニア版SF & ミステリー全集刊行リスト <http://homepage1.nifty.com/maiden/jsm/jam00.htm>
後から「遊星からの物体X」の原作だったと知った話のタイトルが、「なぞの宇宙物体 X」。なんか映画タイトルに近いと思ったらオリジナルの映画「遊星よりの物体X」公開が、本の刊行前だった。インターネットってこういうことを調べるだけで時間がつぶれていくことが怖いよなあ。

今自分がどこにいるかが問題だ。

今、馬鹿なことをやった事実をツイートして世間に広めてしまい、自分にも周りにも大きな傷を残すという若い人のことが話題になっている。

いろんな人が、それについて考察していて、それを読むだけでもけっこう面白い。
一番代表的なのはこれだと思う。

うちの世界

<http://khjkljkljklj.hatenablog.com/entry/2013/08/06/155425>

ただ、個人的には以下の意見が一番シンプルでわかりやすいと思った。

馬鹿な写真がよく炎上している理由

<http://d.hatena.ne.jp/Hamachiya2/20130809/flaming>

「スマホで見たとき、ツイッターとかフェイスブックのインターフェイスが、グループチャットに見えるから。」

スマホや携帯の小さい窓から見れば、メールもILINEもメッセージもFacebookのチャットも機能が同じものはみんな同じだと思う。それは当然だわな〜って思う。使う側として機能が同じだったら、その影響とか考えないで使うだろうからねえ。

以前同じこのコラムでも書いたことがあるけれど、（メルマガ011号2013年1月15日発行「小さな窓からしかのぞけないネットの海」）

『情報を得る窓が小さいと、全体が見えない。

広げた新聞紙全体を隠し、スマホのサイズの画面分だけ穴を開けてのぞいている、そんな感覚がある。窓が小さいと、全部を見るのには時間がかかるから、余分なものは見なくなる。そして、余分なものを排除していったら、どれが「余分」なのかが、だんだんわからなくなるんじゃないかな。。

「ツイッターやフェイスブックのインターフェイスがグループチャットに見える」というのは、要するに「小さな窓」だから。自分と相手、知っている人しか登場しない「小さな窓」しか見ていなければ、今自分がどのへんの位置にいるのかがわからなくなってしまう。

本来、インターネットは世界と繋がる道具なのに。

人が生きる上で「全体がこうなっていて、今、自分がどのあたりにいるか」ということを考える（想像する）ことはとても大事だと思う。

たとえ自分のいる位置がわからなくても、少なくとも、自分のまわりには知らない世界があることを意識する。それだけでも、生きていく方向が違ってくるような気がする。

「井の中の蛙大海を知らず」ということわざがあるけれど、「蛙」はそのまま井戸にいれば外

の世界にかかわることはないけれど、スマホという世界は「蛙」側から見えないだけで「大海」側からは丸見えなんだから。

私は大学出てからしばらく日本中をちょこまかと一人で旅していた。

バックパッカーのような本格的なものではない。だいたいの行き先を決めたらガイドブックを購入しておおまかな情報を得る。泊まる場所はユースホステル（若者向けの安宿）※や民宿。

着いてからその先は、ユースホステルで一緒になった人やペアレントさん（ユースホステルの管理者）にお勧めを聞いて旅を続ける。

で、当時は「周遊券」という、そのエリア内なら期間中国鉄（JR）乗り放題という切符が使えた。

エリア内どの路線を使ってもいいので、あらかじめびっちり予定を立てる必要はない。

ただ、エリア内にはどんな有名な観光地があって、自分はどこに一番行きたいか、そのあたりを一応考えておかないと、人からのアドバイスに振り回されてしまう。

それに、どの路線使ってもいいといっても、地方の列車はともかく本数がバカ少ないので目的地から次のことも考えておかないとヤバイ。特に北海道なんて、列車1本違うとまる1日の差が出たりする。時刻表によるシミュレーションは必須だ。

.....まあ自動車やバイクならそのあたり自由なので、全然違う意識のもとに旅をしたんだろうなって思うけど。

なんかテーマと離れているようだけれど、たぶん私が今の立ち位置を気にするようになったのは、この一人旅を頻繁にしていた時期からじゃないかなって思う。

旅先ではいろんな人がいる。一人旅＋ユースホステルの場合、確実に他人と話す機会がある。世間話で終わるときもあるし、旅の面白エピソードや、仕事の話とか趣味の話も出る。

異業種交流会みたいに、まったく自分と違う場所に住んで違う生活をしている人と話すというのは、刺激的でとても面白かった。

一人旅は「人生」と似ているなあと、一人旅をしなくなってから、よく思った。

今、自分の立ち位置について改めて考えているのは、自分が今何をしたいのか、何をめざしているのか、どこにいるのか.....表面的・物理的には充分わかっているつもりなのだけれど、ふっと本当にこれでいいんだろうか、心の奥の奥で悩んでいるからかもしれない。

今は「一人旅」じゃないから。

※ユースホステル

<http://www.jyh.or.jp/whatsyh.html>

よく利用していたころはお酒ダメとか条件が多かったのだけれど、今はそのあたりは柔軟になっているらしい。ただ、利用したことのあるユースが減っていたことが気になった。特に東北地方。下北ユースとか奥入瀬ユースはもう無いんだね.....。まあ20年以上前の記憶だから仕方が無いか。北海道では、ユースよりも民宿によく泊まった。「[とほ宿](#)」に載っている宿は、当時からあるものも多い。娘と北海道へ行ったとき、同じ宿に泊まってみた。オーナーは変わってい

たが、建物とマンガがたっぷりある休憩部屋が当時のま ま運用されていて、時間が戻ったようだった。

草加の「観光資源」で思ったこと

お盆に、生まれ故郷である岐阜市に行ってきた。

そこにはご先祖さまのお墓があり、25年以上お参りに行っていなかったのも、もしかしたら今の状況はそのせいもあるかもしれないなどと言いつけを作り、くそ忙しい中、1泊だけだが無理矢理時間を作って行ったのだ。

まあ実際には「観光旅行」ではある。なぜかって、そこにはすでに実家はなく、両親もおらず（遠い親戚のみ）、私自身もトータル8年ほどしか住んでいなかったから。ご先祖様と父方の祖父、祖母、そして戦争で亡くなった父の兄2人が眠っているお墓だけが、ある。

さて、そのとき感じたのが、岐阜市の持つ観光資源の強さだ。

まず「織田信長」。日本人なら知らない人は居ないんじゃないかというくらい、日本史の中でもずば抜けて有名だろう。「斎藤道三」と「織田信長」がかつて居たことのある岐阜城は、コンクリート製ながら資料館として残っている。岐阜城がある金華山にはロープウェイがあり、金華山からは岐阜市が一望できる。

「長良川の鶉飼い」もある。鶉飼い自体は全国にあるので（※）それほど有名ではないかもしれないが、インパクトのある観光資源であることには変わりがない。ついでにいえば、長良川※は日本三大清流のひとつで、市内の河原で泳ぐことができる。

さて、振り返って草加市の「観光資源」。

草加市公式ページの「観光・イベント」の説明は「観光スポット・名所・遺跡」となっている。「草加50のお宝」に選ばれたものを初めとするをさまざまな草加のもの・ことが、草加市の「観光資源」として取り上げられている。

<http://www.city.soka.saitama.jp/event/index.html>

素敵な松並木の風景、松尾芭蕉や曾良の像、ゆったりできる神明庵、古い建物の匂いが落ち着く歴史民俗資料館。「ふささら祭り」や「宿場祭り」や「よさこいサンバフェスティバル」などのお祭り。ハーブフェスティバルやB級グルメなどのイベント。

これらは、岐阜市の「観光資源」を見た後では、ぶっちゃけ弱い。

というか、これらをは「観光資源」とひっくり返して呼んでしまっていることなんだろうか、ってこと。

goo辞書によれば「観光」とは、「他の国や地方の風景・史跡・風物などを見物すること」。『他の』という部分があるように、「観光」という言葉は、視線が地域の外側に向かっている。

草加市の観光でキーワードとなっている「おもてなし」にしても、「外から来たお客さんをもてなす」、つまり、地元の人には「もてなす側」なんですよ、来てくれる人を楽しませる役割をしてください、と言っていることになる。

「草加市の観光資源」とまとめられているさまざまなこと・ものは、多くが「地元の人のため

のもの」であり、地元の人に愛され、地元の人を楽しむものだと思う。

けれども、「観光資源」と分類してしまうことで、「地元の人」が、おざなりになってしまっている、そんなように感じる。

今年の6月、草加せんべいのゆるキャラパリポリくんが「観光大使」に任命されたというニュースがあった。草加市公式ページにあるお知らせの始まりはこうだ（広報そうか6月5日号に掲載）

。「市は、観光がもたらす地域産業の活性化などの効果で、にぎわいと活力ある自立したまち草加を実現するため、観光施策を積極的に推進しています。」

<http://www.city.soka.saitama.jp/shimin/koho/h25/13060599/01/01.html>

「観光がもたらす地域産業の活性化などの効果」って、何だろう。

「誰もが訪れたいくなる町」「にぎわいと活力ある自立した町」は、「観光資源」が充実している町なのか？

しかも、現時点では草加の「観光資源」はそれほど強くない。それをアピールすることの意味は？

「観光資源」が充実すれば、草加市は快適で暮らしやすい町になるのだろうか。

草加市は東京に近いから、「埼玉都民」（東京に働きに言っているサラリーマン）が多い。草加の地場産業を直に盛り上げてくれるのは、こういったここに住んでいる人々なのではないか。

外を向いた「観光」ではなくて、もっと草加市民の方を向いた、草加市民そのものをおもてなしする、そんな方向性を持たないだろうか、そんな方向性を持つ言葉で表現できないだろうか。

そんなことを思った。

まとめ：草加市には、他の地域に自慢できるようなすごい「観光資源」は少ないんだから、もっと草加市内に住む人のこと、地元目線で催し物やイベント考えましょうよ。観光資源という考え方じゃなく地域資源とか生活資源とか、そんな目線で考えましょうよ。

うーむ。まとまらないけど言いたいのはこういうことなんです。

※補足：最新のコラム（9月25日号）で、草加のお祭りについてちょっと調べた。「観光資源」という呼び方でまとめるのはやはりなんとなく違和感はあるが、「宿場まつり」は地元のお祭り、「よさこい」がからむ「よさこいサンバフェスティバル」「草加ふささら祭り」は外向きの観光を意識するお祭りという位置づけになっている。

9月まとめ版をどうぞ。

※鵜飼い

<http://ja.wikipedia.org/wiki/鵜飼い>

※長良川

<http://ja.wikipedia.org/wiki/長良川>

イベント告知と「わいわいロード商店会夏祭り」

8月第1週の週末の草加は、イベントがてんこ盛りだった。花火大会。音楽イベント。地域の夏祭りと盆踊り。

3日に、新田西口の「わいわいロード商店会」で開催されているサマーフェスティバルを訪ねた。

新田西口にある、ヨーカドーとセブンイレブンを中心とした商店会の夏祭りだ。流しそうめんや花火、ストラックアウト・輪投げなどの子どもの遊び場、串焼きや生ビールや広島お好み焼きややきとりや小松菜スムージーや、地場野菜販売や益子焼販売。セブンイレブン前では、太鼓、よさこい連、フラダンス、空手演舞、そしてバンド演奏などが続く。

私が参加している市内有志の集まり「草加会」もブースを構え、折り紙を使った「切り絵」体験ができるようになっていた。

「サマーフェスティバル」はまったりとした地域の「お祭り」だ。子どもたちがイベント会場の一角で遊び、大人はステージの音楽を聞きながらビールを飲み、お好み焼きや焼き鳥を食べ、おしゃべりする。。

ここに足を運ぶ人は、ふだんこの商店街、ヨーカドーなどで買い物をしているご近所の人だろう。だからこの日のイベントの告知は、おもに商店街の各店舗や最寄り駅である新田駅にポスターを貼り、ちらしを配るといって行われているはずだ。

商店会のブログでも告知していたが、ふだん新田に買い物に来ない、たとえば瀬崎町に住んでいる人が、それを見てやってくる、という可能性は少ない。

インターネットの情報は、ちらしをどこかでちらっと見たご近所の人が、そういえば何時からだっけ、などと確認するために存在する。

「草生人編集部」のツイッターで草加市内のおもなイベントをつぶやいているけれど、地元商店街のイベントや「公民館まつり」のような、その周りに住んでいる人向けのイベントの場合、それをツイートすべきかどうか、いつも迷ってる。

現時点では、ある程度の規模があるとか、一般の人が行っても楽しめるだろうと想像できたものについて、ツイートしている。

新田わいわいロードのサマーフェスティバルは、小規模だけれどステージイベントがあったので、ツイート。

しかし、たとえば、「〇〇コミュニティセンター発表会」のような関係者のイベントや、申し込みが必要で定員が限られているイベントや、商店街のセールのイベントとかは、今のところとりあげていない（「広報そうか」のWeb版には掲載しているので、そのURLを掲載している）。

しかし、この判断でいいのだろうか。広報そうかに掲載されている、範囲は限られるにしても、誰でもが申し込めると思えるものはすべてツイートした方が役に立つのでは。

なかなか難しい。

今後、たとえば「育児関連」「講座・講演会連絡」などのカテゴリで分けるとか、商店のセールとかそういった情報専用のアカウントを作るとか、そうした方が情報を受け取る側としては便

利なんだろうか。

情報の扱いは難しい。

※ふささらポータル

<http://www.soka-fusasara.net>

もひとつ体が欲しい今日このごろ

暑い。外をちょっと歩くだけであまりの暑さに更年期障害っぽい私の体が反応し、体の芯が暑くなって汗が止まらない。

と下書きで書いたら、今日は割と過ごしやすい日。そうか、もう8月も下旬で、秋の気配がしてくる時期なのね。

さて、「草生人」は今のところ唯一の社員である私と、もう1人ほぼメインライターとなっている「じつに」氏によって作られている。ほぼ2か月ごとに発行される中身は、前半は企画と取材、後半は原稿書きと印刷データ作成という感じになる（Webページの方は専任担当者（メルマガ最後に書いてあります）にお願いしているので、これは紙の方）。

しかし、以前も書いたと思うけれど、市内のイベントは小さいものを含めれば、毎日どこかで何かをやっている。8月は夏休みだったので、さまざまな夏休みのイベントが行われていた。しかし、そういうイベントに行っていると、なかなか原稿書きの時間を取ることができない。

取材原稿を書くには、まずインタビューの録音をテキストに起こすという作業が必要になる（音声そのまま起こす）。これが意外と時間がかかる。

そこから文字数の決まった原稿を書くには、かなりの集中力が必要で、こんなコラムみたいな書き飛ばし原稿とは違ってそれなりに時間がかかる。

いや何が言いたいかというと、日々のイベントに行く時間が取れなくなるのだ。

本当だったら、紹介しているイベントには全部参加して、そのレポートを残しておきたい。そうすれば、草加市の全貌がよりわかってくるだろう。

しかし、イベント自体が重複することも多いから、そんなことは不可能だ。

少人数では。

新聞社の記者が多い理由がわかるよ（いやいやいや）。

将来的に、イベントに参加した人の、感想や意見をとりまとめられたらいいなって思っている。特派員形式。

たとえば「夏休みリサイクル工作教室」とか「親子のためのお料理教室」とか「介護勉強会」とか、そんな感じの小さなイベントの参加レポート。まとまっていたらいいよね。

さて、どうするかな。

※「草生人編集部」は、「草生人」本誌だけではなくて、このメルマガ編集とか、電子書籍版とか、じつに氏の「じつにサプリ」編集とか、草生人に掲載する広告制作とか、経理関連とかそのほか雑務をいろいろやっているわけなので念のため。あと3つ4つ体があればねえ(^_^;)

■その3～仕事開始前の「つまづき」

さて、「会社」の登記は無事終わり、私は「取締役社長」になった。社員は1人も居ないわけだから、まあ全然状況は変わらない。

ただ、ある程度の資本金を準備して「会社」にしたのは、理由があった。

タウン誌をフリーペーパーとして配布し、知名度を上げて部数を増やしていくには、仕事する環境、タウン誌制作にかかる実費などがどうしても初期費用としてかかる。また、電子書籍化も考えていたから、そのための情報集めや端末の研究もしたかった。準備したお金はそのために使っていた。

1年過ぎれば、ある程度広告やちらし作りなどで利益を得られるだろう、別の利益を上げるためのシステムも見えてくるだろうと。

今となっては、この考え方が甘かったとしか言いようがないのだがorz。。

ちなみに、以下に書いてはいないが、実際に一番時間をかけ、わくわくしていたのは「仕事道具を揃える時」だった。

これは別の機会に「趣味の話」として白状したいと思う。

・仕事場探し

まず一番最初にしたことは「仕事場探し」。

「本店」を自宅にしたが、最初から仕事場として借りることは決めていた。

「タウン誌を作る」という作業のほぼ全工程を1で行うつもりだったので、そのために画面の大きなパソコン（Mac）と、作業するためのスペース、資料を置く場所、静かな環境が必要だと思ったからだ。それに、会社の実物（というか場所）が無いと、広告を取るときに信用もされにくいし。

で、もしかしたら泊まりになるかもということ考えたので※、「事務所」としての部屋ではなく、事務所としても使える普通の部屋を探した。

3件目の不動産屋で紹介されたのが今の部屋。建物は古いが、何より自宅に近い。そして価格の割に広い。部屋の構造はちょっと不思議だったが（これが後から響くことになるのだが(^_^;)）すぐに決定！ ちょうど会社登記と同時進行の作業だったため、法人利用（名義変更）してもOKと確認して、とりあえず私個人の名義で借りた。もろもろの手続き費用は「会社」に請求する形。

・「インターネット回線」でつまづく

部屋を準備したら次はそのインフラ。

インターネット回線は仕事の命綱。ごく普通にNTTにお願いすることに。この時点では部屋の名義が私なので、とりあえず全部個人名義で契約。これは今の仕事環境では特に問題はないとのこと。

さて、このとき大きな問題となったのが、インターネット。光回線をお願いしていたのだが、工事に来た人が、工事を始めて間もなく「本来電話回線などを束ねている管（パイプ？）が途中で切れていて、光回線が引けない」と言うのだ。

「へ？何事？」

インターネットに使う光ファイバー回線は、電話線が通っている管にいっしょに通して、部屋にある電話線のモジュラージャックと同じところに引いてくる。しかしその電話線の菅が天井裏に無いと。つまり、電話線がハダカで天井裏にある。

ただ、この問題は「部屋内に引いてあった謎の回線」で解決した。

これは窓側の壁から出ていて、天井の隅を通り、部屋の反対側まで引いてあり、その先には「NTTひかり」と書かれた「モジュラージャック」に行き着く。

工事の人も？な顔をしていたが、どうやらこれ自体が光回線で、この回線を電柱まで来ている線と直接繋げばOKとのこと。たぶん、前入っていた会社が同じ理由で引いたものじゃないかと想像。それって大家さん知らないの？

ともかく回線は繋がってほっとした。出来なかったら仕事ができないところだった。

この時代、ネット環境は必須だから……。

・「水びたしにした犯人は誰だ！！」

仕事場はフローリングだったが、パソコンデスクや本棚を置く前に、傷が付かないようビニルタイプの敷物を引いた、その次の日。

なぜか床が水浸しになっていた。

どこか水漏れが、と天井などを見回したが浸みも無く、皆目わからない。前日大雨があったので、もしかしたら窓が開いてたのかもと思ったけれど確証がない。

大家さんに話したが、「前に入っていた人からはそんなこと聞いていない」でその時はおしまい。

しかし、その後も窓際が何回か濡れていたため、確実に雨漏りだと思い連絡、ようやく大家さんと業者さんがいっしょに来て、壁面とか天井とかいろいろ見て点検した。

しかし、どこから漏れているかわからない、外側の壁面や屋上で工事したら足場だけで何十万とかかるとかで、「雨が降っているときに知らせて下さい」とそのまま帰ってしまった。

しかしこれではいつまでも解決しない。

……さて、ある大雨の日、窓枠の上からぼたりぼたり水滴が墜ちているのを発見。

その時点で呼んでも間に合わないのので、それをビデオに撮影、大家さんに見せた。

さすがにこれだけ確実な映像を見せられたらどうしようもないみたいで、別の業者さんに頼んだらしくようやく解決。その新しい業者さんは、水漏れの具合を見てすぐにどこが原因か推測し、最小限の足場を組んでさっと作業を終わらせ、「これで大丈夫だと思います」と力強い言葉を残していった。

これぞプロのお仕事、と感心した。

他に、部屋のレイアウトを考え、備品を揃え、買い物をし、と、そんなこんなで、会社を設立して約2か月くらいは「タウン誌を作る」という仕事にはかかれなかった※。次回は仕事場が一段落、タウン誌制作始動、の話。

■番外：タウン誌を創るための「道具」に関するお話

はじめに：

この原稿、これ知らない人にとっては意味不明な原稿になってましたorz。

なるべくわかりやすく書いているつもりだけど、知識以前に興味がないと理解しにくいです。なので、以下の原稿は覚え書きに近いです。興味がある人は読んでください。ちなみに、ちらしのデータを自分で作ろうと思う人には、それなりに役に立つかもです。

今回から、「タウン誌」制作についての具体的なこと、どの作業から始めたとか難しかったこととかを書こうと思ったのだが、ふと、前回「制作環境」、つまりタウン誌を創るための道具となるパソコン（Mac）や、ネットのこと、そのあたりについて触れていなかったことに気がついた。

実は、「タウン誌を創る」という動機の半分くらいは、私が編集プロダクションにいたころから、商業用の印刷データをパソコンで作るという「DTP」※（デスクトップパブリッシング、パソコンによる商業印刷用データの作成）を扱っていた、という経験があったからだ。

このことがなければ、一人でタウン誌を創ろうなんてことは考えなかったのではないかと思う。

（このことは以前もメルマガで触れている）

※DTP

<http://e-words.jp/w/DTP.html>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/DTP>

ちなみに、「商業用印刷」と家でふつうにパソコンから行っている「印刷」と何が違うのか、ということは、最近増えているネットでの格安印刷業者のサイトを見ればわかる。

パソコンのOffice系ソフト（Wordやパワーポイント）で作った書類は、接続した自宅用のエプソンやキヤノンのプリンタでは簡単に印刷できるが、商業印刷用の印刷機ではそう簡単にコトが運ばない。条件が厳しいからね。

データを印刷機のために変換する必要があるし（それに費用がかかる）、「写真の色が変わる」とか「キレイに印刷できない」とか注意点がたっぷり書いてある。

最近利用したところはかなり丁寧に説明があったので、そのページを紹介しておく。

※KINGprinters（キングプリンターズ）

データチェック王プリタンの楽しくわかりやすくマスター「完全データへの道」

http://kingprinters.com/perfect_data/

下の方に「第1回」から、データの説明が書いてある。

以下、「道具」の説明。

- ・パソコンは二刀流（**MacとWin7**）

とりあえず「DTPといえばMac」なので、画面の広い27インチiMacと、Webサイト制作用にWindowsのVAIOLX（iMacと同じ一体型タイプ）を用意した。

スタッフ用には、VAIOノート。両方ともWindows7。今のところWindows8にする予定は無し。ちなみになぜVAIOなのか。一番最初に購入したとき、他のメーカーではごたごたと入っている余計なソフトが少なめだったこと、かな。

- ・ネットワークは無線、だけどプリンタは有線

NTTのひかりマンションタイプ+ひかり電話。ルータはNTTからレンタル（「PR-S300NE」）。無線LANのオプションは無しで、別に無線LANルータ（バッファローの安いヤツ）を繋げて使っている。要するに無線のアンテナ。

ただ、ネットワークについては困ったことがある。場所が駅に近い商店街の近くのせい、ともかくアクセスポイントの多さが半端ないのだ。

今ちょっと数えてみたら25もある。auとかSoftBankなどの携帯会社が、Wi-Fiアクセスポイントを設置しまくっているのもあるだろう。いったん設定してしまえば繋がることは繋がるので普通では問題ない。

だがしかし、Wi-Fi機能のついたプリンタで、無線で快適印刷になるはずが、しょっちゅうエラーが出てうまく印刷できない。エラー理由を調べてみたら「無線が混雑している」と出た。

プリンタの場合、送信するデータがインターネットとは比べものにならないほど大きいので、エラーが出やすいのだ。

なので仕方なく長いUSBケーブルを買ってきて繋いだ。

やれやれ。

- ・電話はひかり電話、よりは**PHS**

ひかり回線と同時に契約して使っている「ひかり電話」だが、音質が悪い。当然か。PHS（ウィルコム）の方が音がいいので、仕事用はもっぱら「誰とでも定額」を設定しているPHSを使っている。

- ・エプソンの全部入りプリンタとレーザープリンタ

スキャナとFaxとプリンタが1台に入っているタイプ（[PX-1600F](#)）を購入。光回線でFAXは大丈夫かなと思ったけれど、なんとかOK。タウン誌だけではなく、ちらしなども作って行こうと思っていたので、A3まで印刷できるものを選んだ。

しかしカラープリンタって本当に安くなったなあ。ただ、ランニングコスト、インクが高いのがちょっと困る。校正用に何枚も印刷することになるから、意外とかかかってしまっている。

もうひとつ、カラーレーザープリンタを用意している。印刷のしゅくみが、インクジェットプリンタよりも商業印刷に近い、校正用に欲しかったのだ。それに、思ったよりも安かったから

([KONICA MINOLTA magicolor1650EN](#))。

しかし、買ってから大きな欠点があることがわかった。

レーザープリンタは「ページプリンタ」とも言って、ページごとにデータをまとめてプリンタに送る方式で、コピー機と同じ感じだから普通なら印刷が早い。しかし、安いプリンタには欠点があった。まとめたデータをパソコン上で作る段階で、ものすごく時間がかかるのだ。

理由は.....めんどくさいので省略(^_^;)

企画書みたいなテキスト文書ならさっと印刷できるが、複数の写真が入った複雑なレイアウトのページは、1枚に20分かかったなんてのもあったりした。あああああ。

ただ、印刷したものは水に強いので、校正はしやすいけれどね。

・クォーク対インデザイン：印刷用データを作るソフトウェア

使っているのは[AdobeCS6](#) (InDesign+Photoshop+illustratorほか) ※1。

今のところMac用のみなので、DTPオペレーターは私1人ということになる。自宅のMacBookにも同じ環境を作って、いざとなったら自宅でも作業できるようにしている（というわけで、私が調子が悪いと作業が滞る）。

さて、今はAdobeのソフトが主流で、Windows版もあるんだけど、DTPの初めの頃は、みんなMacintoshとクォーク社の「[QuarkXPress](#)」 ※2 を使っていた。

本当にみ～んな使っていた（いわゆるデファクトスタンダード）。

苦労も多かったけど※2。

今は、AdobeのInDesignがシェアを奪っている。PhotoshopとかIllustratorで加工した写真や図版が、そのまま（フォーマットを変えずに）使えるのがやたら便利。

以前いた会社はずっとQuarkXPressを使い、InDesignに移行はせず、DTPがらみの仕事もほとんど受けていなかったが、私は個人的に使いたくて、自分のPhotoshopからバージョンアップして手に入れた。DTPのスキルはそれなりに役に立つと思ったから。

（ただ最前線でばりばりオペレーターとして活躍している人から見ると、のんびり独学でやってきた私のスキルは甘いんじゃないかな～とも思う※3）

ちなみに今はQuarkXPressの方がマイナーになってしまっている。

シェアはどれくらいなのかな。

時々、このふたつのDTPソフトウェア、両方ともアメリカ生まれだってことに驚く。もともと欧文仕様なのに、日本語の複雑な文字と組み版に対応しているのだ。日本語を使っているのは日本だけだし、しかも縦書きを日常的に使っているのも日本だけなのだ。そのための機能をちゃんと持っているという凄さ。

ePub3では縦書き対応をしまっているし、なんか日本のために悪いですねとか思ってしまう

。 Wordが未だに日本語の縦書き対応が中途半端だもんね（だから「一太郎」が指示されている）

ええっと、業界の人ではないとちょっとわけわからん内容でしたが、とりあえずこんな道具で「草生人」は作られています。

※1 AdobeCS6 : Adobe Creative Suite

アドビシステムズ社が出している、印刷・Webのグラフィックデザイン・動画編集などのアプリケーションツールを集めた総合パッケージのこと。

http://ja.wikipedia.org/wiki/Adobe_Creative_Suite

アドビ (Adobe) : <http://www.adobe.com/jp/>

※2 QuarkXPress

<http://ja.wikipedia.org/wiki/QuarkXPress>

クオーク (Quark) : <http://www.quark.com/jp/Products/QuarkXPress/>

※3 実際に最新号で、フォントデータのエラーが発生した。ある会社のフォントは、InDesign上で使うときには、アウトライン化（フォントデータから画像データへ変換すること）をしないといけないという基本的知識が無かった。一応知識としてはあったが、今まで問題なかったのでスルーしていた。現場の経験不足はこんな感じで表面化するわけです。

スキルを磨くというのはこういう知識経験を自分の中に溜めていくということで、なかなか難しい。

じつに彰の草加小話：ヤンキー文化が発する街おこしのメッセージ

●漢字の当て字のチーム名

よさこいの連の名称に暴走族のような漢字の当て字が目につくため、暴走族とでも関係があるのではないか、と心配する人がいた。

去る7月20日と21日に開催された草加よさこいサンバフェスティバルに出演した連だと、輝楽喜楽連（きらきられん）、疾風乱舞（しっぷうらんぶ）、朝霞襲雷華撃団（あさかしゅうらいかげきだん）あたりが、そんな心配を引き起こすのだろうか。

実際には輝楽喜楽連は草加市内の中高年の女性のチーム、疾風乱舞は平塚のダンススクールが母体となった若い女性だけのチーム、朝霞襲雷華撃団は朝霞市の若い男女のチーム。いずれも暴走族と無縁だ。

ちなみに疾風乱舞の激しさとあでやかさは印象深かった。去年の水戸藩につづく上質なよさこいとの出会いだった。

●よさこいに連なる「ヤンキー文化」

裾の長い和のテイストの衣装や気合いの入ったかけごえから、よさこいと原宿竹の子族やヤンキー文化との類似を指摘する人は多い。

この数年、ヤンキー文化は研究対象になりつつあるようだ。
たとえば以下のような書籍が刊行されている。

『ヤンキー文化論序説』（五十嵐太郎著）

<http://goo.gl/9jJ83a>

あらゆるジャンルの研究者、ライターたちが、硬軟あらゆる側面から日本に偏在するヤンキー的なものを執筆した本。

『世界が土曜の夜の夢なら ヤンキーと精神分析』（斎藤環著）

<http://goo.gl/xbgvQG>

精神医学者がヤンキー的なあらゆる事象、矢沢永吉、B's EXILE 木村拓哉、白洲次郎などを分析しつつ、日本の反知性的な国民性をあぶりだす。

ヤンキーな男女は日本中に大勢いて、生活や文化を享受している。ヤンキーじゃない人というと、どうやら「おたく」などがその代表といえるようだが、おそらくヤンキー層のほうが多数派なのではないだろうか。

また、ヤンキーは「今・ここ」を肯定するメンタリティだと、大学の講義で聴いてきたと娘が言った。八百万（やおよろず）の神々がいる日本は、どこも神聖な場所であり、つまらない地元もすばらしい故郷たりうるのだ。これがヤンキーが地元で踏ん張って幸福を追求する動機なのかもしれない。

草加のよさこい連を主宰する人と話す機会があった。彼は不良ではなかった。それどころか仕事に熱心な自営業者であり、また街の興隆のためにあらゆる街おこし活動に参加するきわめてまじめな大人だった。彼はよさこいを通して街を元気にしようと真剣に考えている。

よさこいに燃えるとき、自分の中のヤンキー魂に出会うのだろう。

ヤンキーこそ地元の仲間がひとつになる共通の精神なのだろう。

●ヤンキー発のポジティブなメッセージ

ヤンキー文化が気になり始めてから、ヤンキーならではの熱いメッセージが筆者の心にも届き始めた。たとえばNHKの連続テレビ小説『あまちゃん』。橋本愛が演じる足立ユイは上京してアイドルになる夢を持っていたが、家庭のトラブルが元で夢が破れ岩手県北三陸に留まらずを得なかった。そして見る見るうちに風貌、言動が不良に、すなわちヤンキーになっていった。

だが、周囲の愛情によって明るさを取り戻し、海女になる決意をし、地元のアイドルになった。街おこしに身を投じたのだ。（8月15日放映時点）

ヤンキーの青春模様を歌い続ける氣志團は、去年から「氣志團万博」という音楽フェスティバルを南房総（袖ヶ浦）で開催し、「自分の生まれ故郷で生きる若者たちに、勇気を与えること」という夢を高らかに掲げた。

「氣志團万博2013」

<http://www.kishidanbanpaku.com/>

EXILEは斜に構えて威嚇するような目つきの男たちだが、彼らが歌う「Rising Sun」には日本の明るい未来を信じるまっすぐでポジティブなメッセージが込められている。

これからの日本を考えるとき、ヤンキーは無視できないと思う。自分の中のヤンキーを見つめなおそう。

奥付

草生人メールマガジン2013年8月号

<http://p.booklog.jp/book/77131>

発行元 : ASYMOS

発光元プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/asymos-yoshino/profile>

編集・発行責任者 : ASYMOS 染谷洋子 someiyoshino@asymos.com

※本メルマガに掲載される記事の著作権は発行元及び発行責任者に帰属します。

© 2013 soseijin ASYMOS.INC

※記事の引用、転載のご希望がある場合は、記事によって取材先の許可が必要な場合がありますのでご連絡をお願いします。

※メルマガの内容に関するお問い合わせは : asymos_info@asymos.com

もしくはこちらへ : <http://www.asymos.com/FormMail/iken/FormMail.html>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/77131>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/77131>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブックログ